

貧困、DVから子どもを救おう

甲府の教会

悩み抱える家庭支援へ新組織

病気や貧困、ドメスティックバイオレンス(DV)などの問題を抱える家庭の子どもを救おうと、甲府カトリック教会(甲府市中央2丁目)が18日、「子どもの権利擁護のサポートプロジェクト」を立ち上げる。早期に相談できる態勢を整え、どこにも相談できず、

子どもが親と離れて暮らさなければならないなど深刻化するのを防ぐ。専門機関につなげるコーディネーター役を担い、その後も継続して相談に乗る。支援に当たるボランティアを募り、子どもが安心して暮らせるよう長期的にサポートする。
〈窪田あずみ〉

専門機関に橋渡しし、深刻化防ぐ

同教会には、病気で生活が困難になったり、借金に追われていたりする家庭、DV被害に遭い行き場のない母子から相談が寄せられる。公的な相談窓口の存在を知らず、早期に相談できなかったケースがほとんど。これまでも同教会は、病院や福祉事務所、児童相談所など専門機関につなぎながら支援してきた。同教会事務局長の木村輝三さん(69)によると、困難な問題を抱える家庭は、子どもを施設や里親に預けなければならなくなる。親が病気で、子どもが食事を十分に取れない家庭もあるという。木村さんは「自分で解決することができない子どもたちにしわ寄せがいき、親との絆を結ばなくなるなどして心に傷を負っている」と危惧する。

こうした現状を受け、子どもがいる家庭を専門的に支援しようと、プロジェクトを立ち上げる。プロジェクトが最初の相談窓口になり、問題に応じて、福祉事務所や病院、児童相談所、ハローワーク、社会福祉法人など専門機関に橋渡しする。問題解決には時

間もかかることから、自立するまで相談に応じていく。また、問題を抱える家庭を近隣住民が支援するケースもあるが、支援する住民に専門知識がなく、行き詰まってしまっている現状もある。プロジェクトではこうした近隣住民のサポートも担う。プロジェクトは18日に発足し、同教会を拠点に専用電話を設け、相談を受け付ける。同日午後2時から同教会で記念セミナーを開き、支援者の心構えや注意点などを学

ぶ。
木村さんは「子どもが親と離れ離れになったり、親に複雑な気持ちを抱いたりしたままでは、将来にも影響する。同じ市民の立場でそれぞれの家庭に寄り添い、子どもたちが幸せになれるよう支援していきたい」と話している。プロジェクトではスタッフとセミナー参加者を募集している。問い合わせは電話090(8031)9608(木村さん)、090(4223)6727(池田さん)。